



シーズヒーター



フレキシブルパイプ

2007年3月期中間決算説明会  
2006.11.28

NIPPON YAKIN

日本冶金工業株式会社

## 1. 2007年3月期中間期決算サマリー

## 2. 高機能材部門の販売状況

## 2007年3月期中間期の決算ハイライト

- ▶ 中間決算業績は増収、営業・経常利益が微減。  
通期業績予想は増収・増益に上方修正。
- ▶ 原料価格に見合った製品販売価格の追求。
- ▶ 高機能材の販売は、耐食材・耐熱材の輸出を中心に着実に増加。

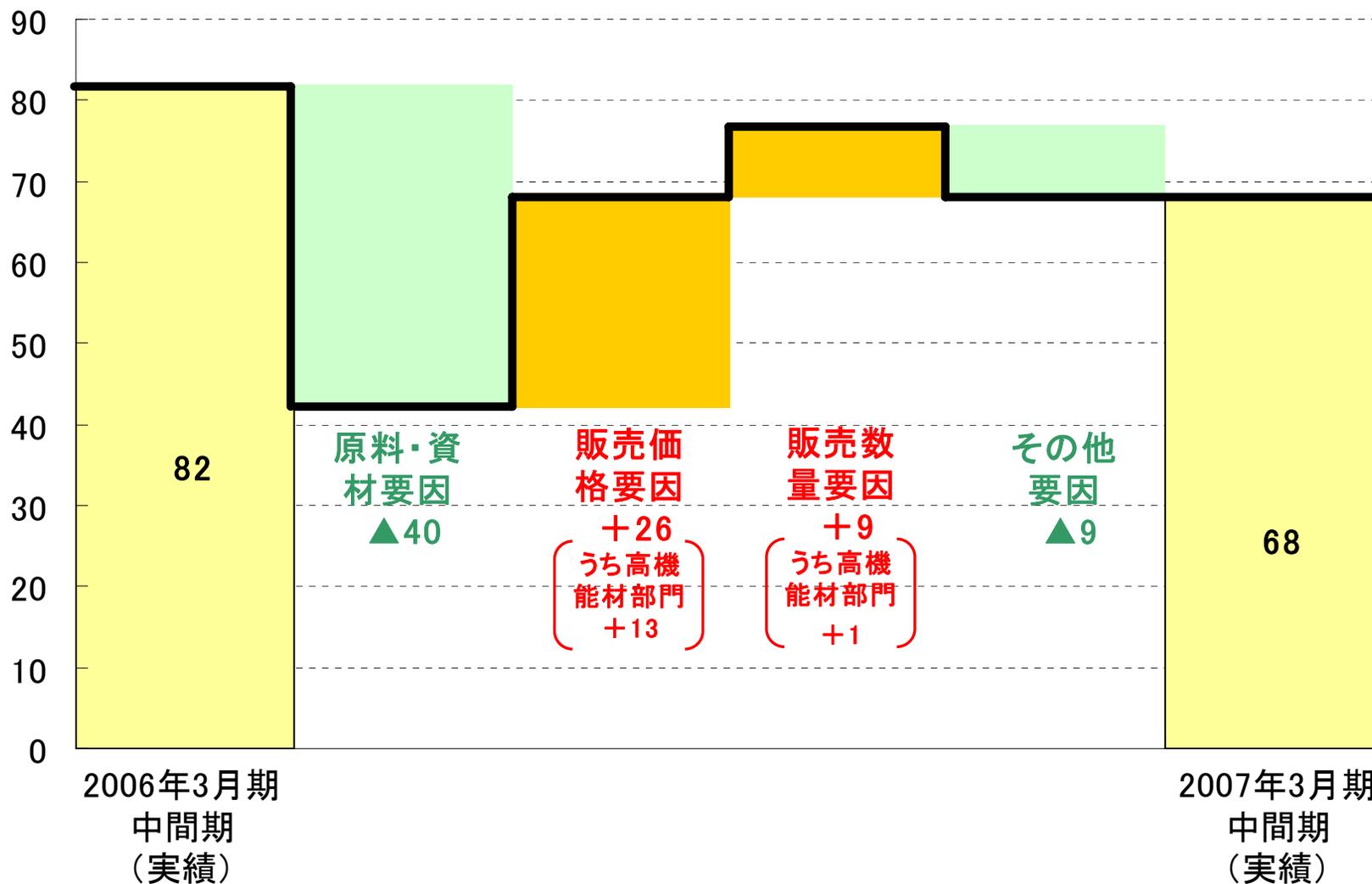
# 損益計算書 連結 概要

	2006年3月期 中間実績 (億円)	2007年3月期 中間実績 (億円)	前年比 (億円)	前年比 (%)	(ご参考) 2006年3月期 通期実績 (億円)
売上高	759	823	63	8.3	1,490
営業利益	82	68	▲ 14	▲ 17.3	133
経常利益	68	59	▲ 9	▲ 13.5	107
中間(当期)純利益	35	48	13	37.1	60
ROA(%)	9.9	8.1			8.1
自己資本比率(%)	22.2	25.4			24.2
高機能材部門 売上高比率(%)	25.7	26.0			24.7

(注)ROAは年換算:(営業利益+受取利息・受取配当金)÷期初・期末平均総資本×2

(ご参考)ニッケルLME期中平均価格:2005年度中間期7.15US\$/Lb、2006年度中間期11.13US\$/Lb。

# 営業利益変動の要因分析(上期比較:億円)



# 貸借対照表 連結 概要

	2006年3月末 (億円)	2006年9月末 (億円)	前期比増減 (億円)	2006年3月末 構成比 (%)	2006年9月末 構成比 (%)
現金・預金	66	97	31	4.0	5.6
売掛債権	293	309	16	17.9	17.9
棚卸資産	360	403	43	22.0	23.3
その他流動資産	20	21	0	1.2	1.2
固定資産	895	897	2	54.8	52.0
<b>【資産合計】</b>	<b>1,634</b>	<b>1,726</b>	<b>92</b>	<b>100.0</b>	<b>100.0</b>
借入金・社債	713	736	23	43.6	42.6
その他負債	520	547	27	31.8	31.7
<b>【負債計】</b>	<b>1,233</b>	<b>1,283</b>	<b>50</b>	<b>75.4</b>	<b>74.3</b>
<b>【少数株主持分】</b>	<b>5</b>		<b>42</b>	<b>0.3</b>	
<b>【資本(純資産)計】(※)</b>	<b>396</b>	<b>443</b>		<b>24.2</b>	<b>25.7</b>

(※) 会計上の表示区分変更により、当中間期からは資本の部を純資産の部として表示しております。  
また、少数株主持分の数値は純資産計に含まれております。

# キャッシュフロー計算書 連結 概要

	2006年3月期 中間実績 (億円)	2007年3月期 中間実績 (億円)	前年比 (億円)	(ご参考) 2006年3月期 通期実績 (億円)
営業活動によるキャッシュフロー	28	40	11	137
税金等調整前中間(当期)純利益	59	56	▲ 4	96
減価償却費	20	20	0	41
売上債権の増加額(△)又は減少額	32	▲ 16	▲ 47	62
たな卸資産の増加額(△)又は減少額	▲ 38	▲ 43	▲ 5	▲ 21
仕入債務及び前受金の増加額又は減少額(△)	▲ 14	41	55	1
法人税等の支払額	▲ 22	▲ 21	1	▲ 32
その他	▲ 9	3	11	▲ 10
投資活動によるキャッシュフロー	▲ 20	▲ 26	▲ 5	▲ 46
有形固定資産の取得による支出	▲ 20	▲ 20	1	▲ 44
フリー・キャッシュフロー	8	14	6	91
財務活動によるキャッシュフロー	▲ 34	16	50	▲ 105
長期借入金の返済による支出	▲ 20	▲ 20	▲ 1	▲ 42
現金及び現金同等物の増減	▲ 26	31	57	▲ 14

# 2007年3月期連結業績予想

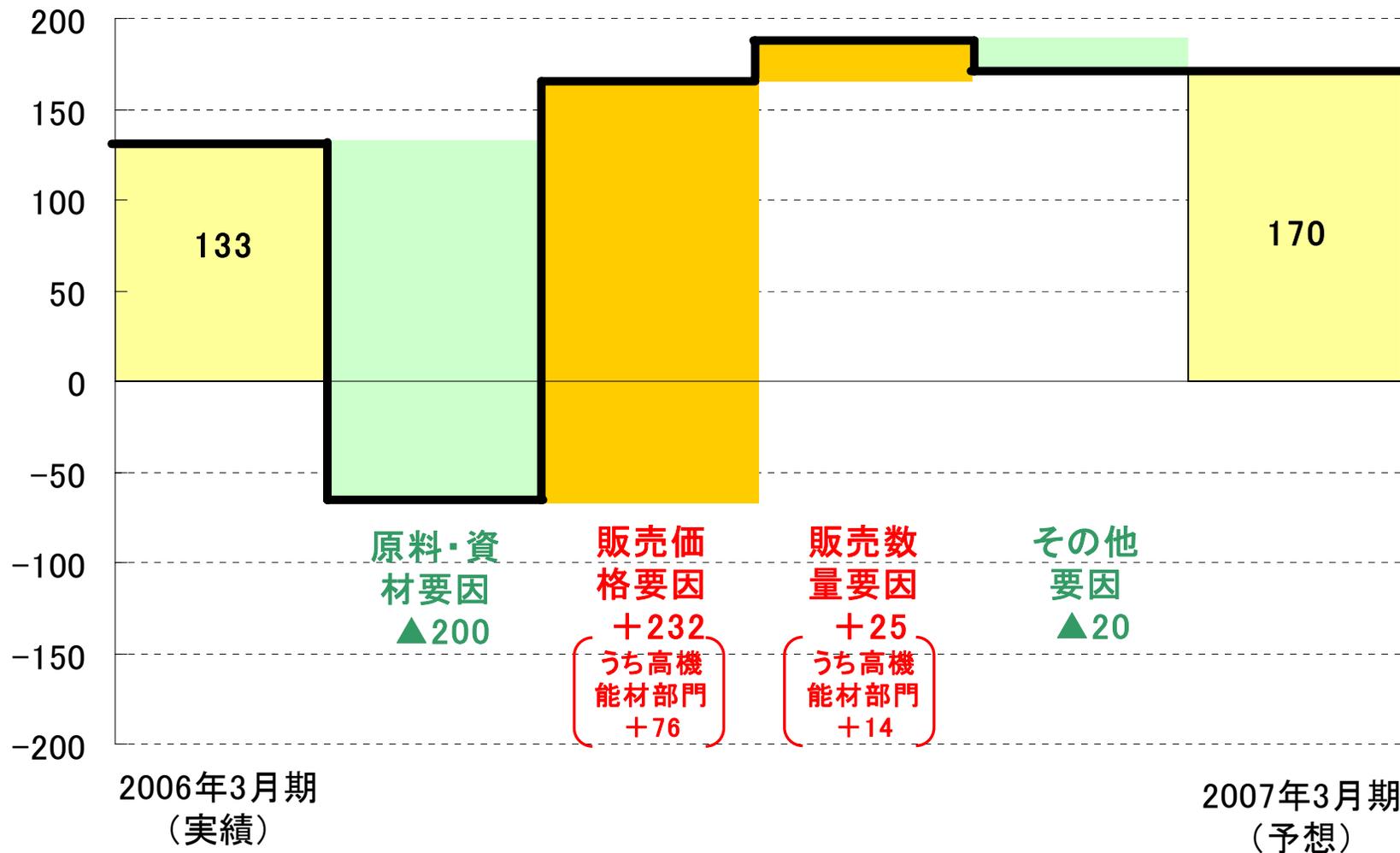
▶売上高、利益予想を上方修正。

	2006年3月期	2007年3月期				中期経営計画 2007年3月期 (億円)
	通期実績 (億円)	前回予想 (億円)	今回予想 (億円)	前年比 (億円)	前年比 (%)	
売上高	1,490	1,570	1,780	290	19.5	1,469
営業利益	133	115	170	37	27.8	116
経常利益	107	100	140	33	30.8	88
中間(当期)純利益	60	66	93	33	55.0	56

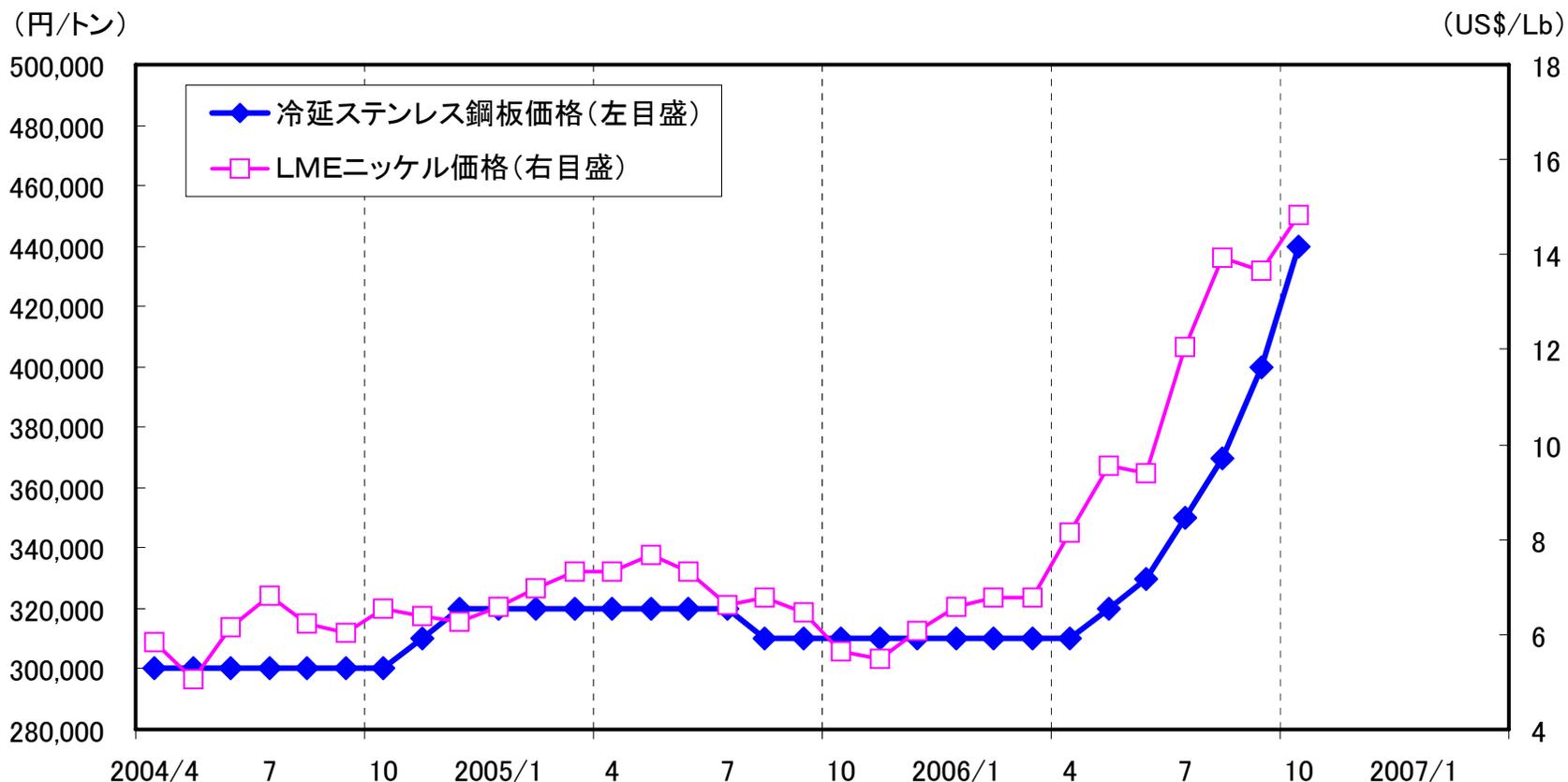
(注) 2007年3月期予想: 前回2006年5月16日時点、今回2006年11月14日時点。

(前提) 2007年3月期下期ニッケルLME期中平均価格: 13.5US\$/Lb、為替レート119円。

# 営業利益変動の要因分析(前期比較:億円)



# ニッケル・ステンレス価格(月次)の推移



(注1) 冷延ステンレス鋼板: 東京SUS304種18-8、2~3ミリ。

(出所) 鉄鋼新聞。

(年/月)

## 中期経営計画数値の実績・目標

	05年3月期 (実績)	06年3月期 (実績)	07年3月期 中間期 (実績)	08年3月期 (中計)
高機能材部門売上高比率 (年度下期、単体ベース)	32.2	24.7	26.0	50.0
ROA(連結ベース)	12.2	8.1	8.1	7.0
自己資本比率(連結ベース)	20.3	24.2	25.4	30.0

(注)ROA=(営業利益+受取利息・受取配当金)／期初・期末平均総資本、中間期は年換算のため×2。

1. 2007年3月期中間期決算サマリー

2. 高機能材部門の販売状況

新しい価値の創造に挑戦し、世界の市場で  
魅力あるステンレス特殊鋼メーカーとなる。

- ① 特殊鋼市場の需給の安定と将来性
- ② 多品種・小ロットの生産に適した当社グループ  
の設備・技術
- ③ 独自性・優越性の追及による他社との差別化

ステンレス製造業界を取り巻く内外環境の急激な変化

## 2006年度以降の施策

環境が変化しても安定収益を確保できる企業体質を作る

### ▶収益力強化の取組み

- ①高機能材路線の一層の推進による事業構造改革の深耕
- ②一般材は原料価格上昇分を製品価格に着実に転嫁

### ▶ボリュームと成長性のある市場へ積極的にシフト

- ①耐食・耐熱材市場におけるシェア拡大
- ②中国市場を睨んだ上海事務所の活用

### ▶高機能材増産のための設備投資

- ③AOD設備のAVS設備への入れ替え

# 当社の目指す高機能材市場

- ▶ 2008年の世界市場規模は53万トン程度<当社推定> ~ 潜在的にはもっと大きな市場
- ▶ ターゲット分野： 熱膨張制御材 ⇒ 市場規模が大きく、シェア拡大が期待できる耐食・耐熱材

機能別分類	主な用途	2008年世界市場規模見通し (千トン/年)	当社シェア 2008年目標 (%)
熱膨張制御材	LNG船、精密機器、バイメタル用、シャドウマスク用	43	26.4
軟磁性材	電子機器、シールド材	5	30.0
耐食材	海水淡水化装置、排煙脱硫装置、海洋構造物、石油掘削・輸送設備	381	4.3
耐熱材	工業炉用材料、原子力発電設備、熱交換装置、シーズヒーター用	36	18.9
高強度材	バネ材、製紙・繊維装置、スチールベルト	19	12.6
その他機能材	使用済核燃料貯蔵用、带状肉盛用途	49	11.6
高機能材市場 合計		533	8.3

## 2006年上半期高機能材の販売状況

### ▶ 売上高の着実な増加

- ・2005年度下半期対比36%増

### ▶ 耐食材・耐熱材へのシフトが加速

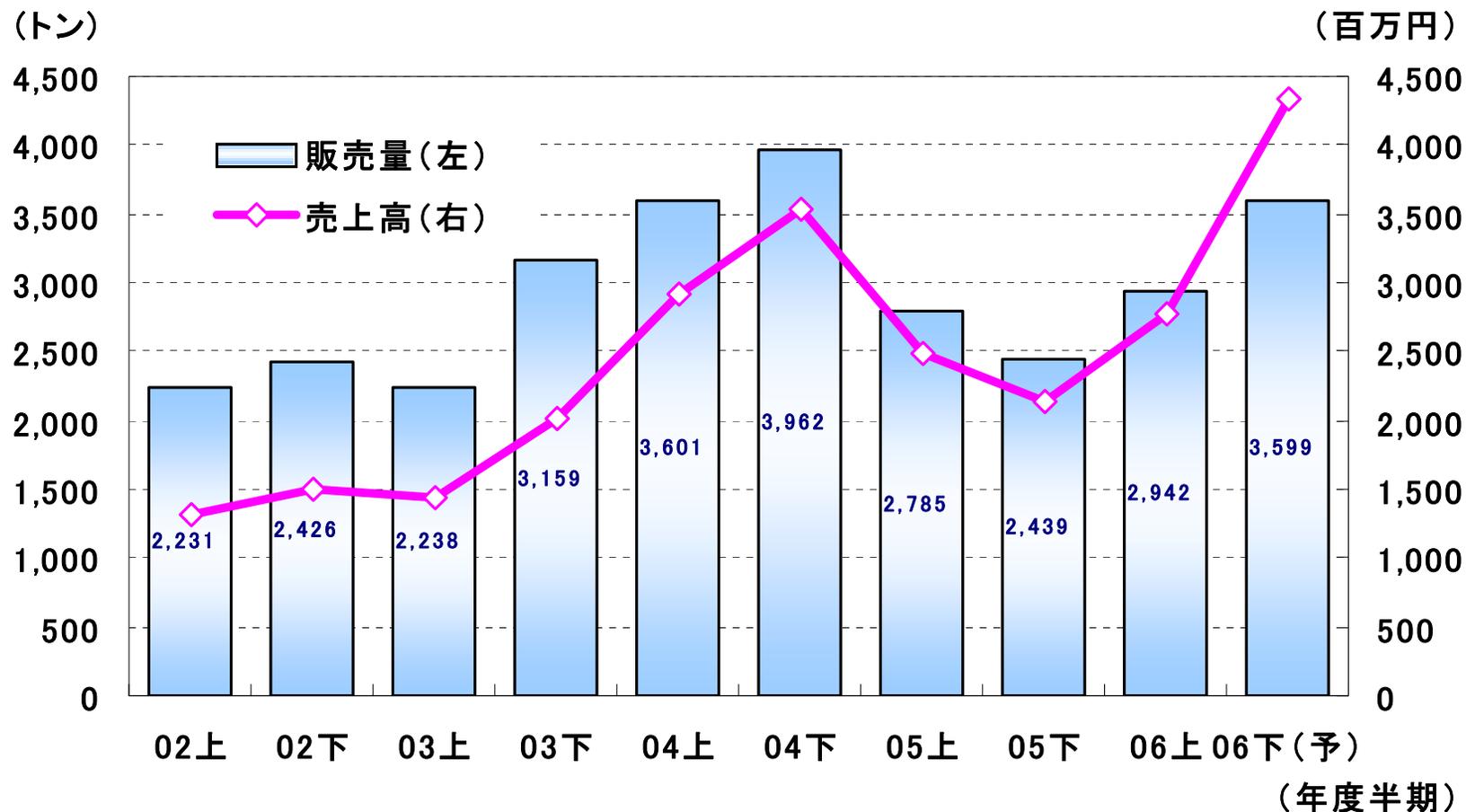
- ・シャドウマスク依存からの完全脱却
- ・耐食材／耐熱材用途分野への営業強化

### ▶ 輸出比率の上昇

- ・エネルギー／環境関連市場からの需要増大

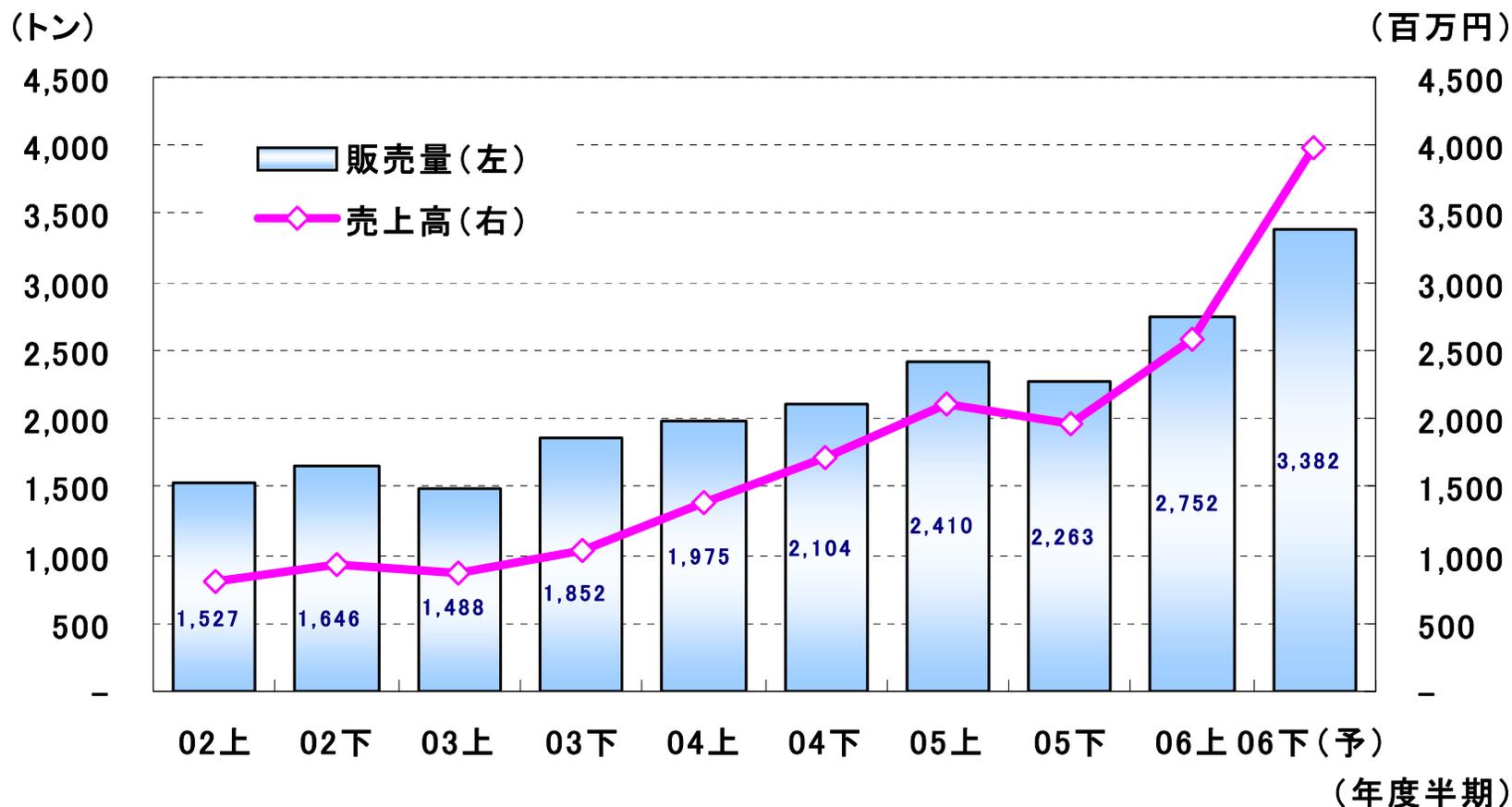
## 販売量及び売上高 《高機能材合計～月平均》

- ▶ プラズマ・液晶テレビへの移行により、2005年度以降シャドウマスクの売上が激減。
- ▶ 2005年度以降は耐食材・耐熱材市場への営業展開により売上回復。



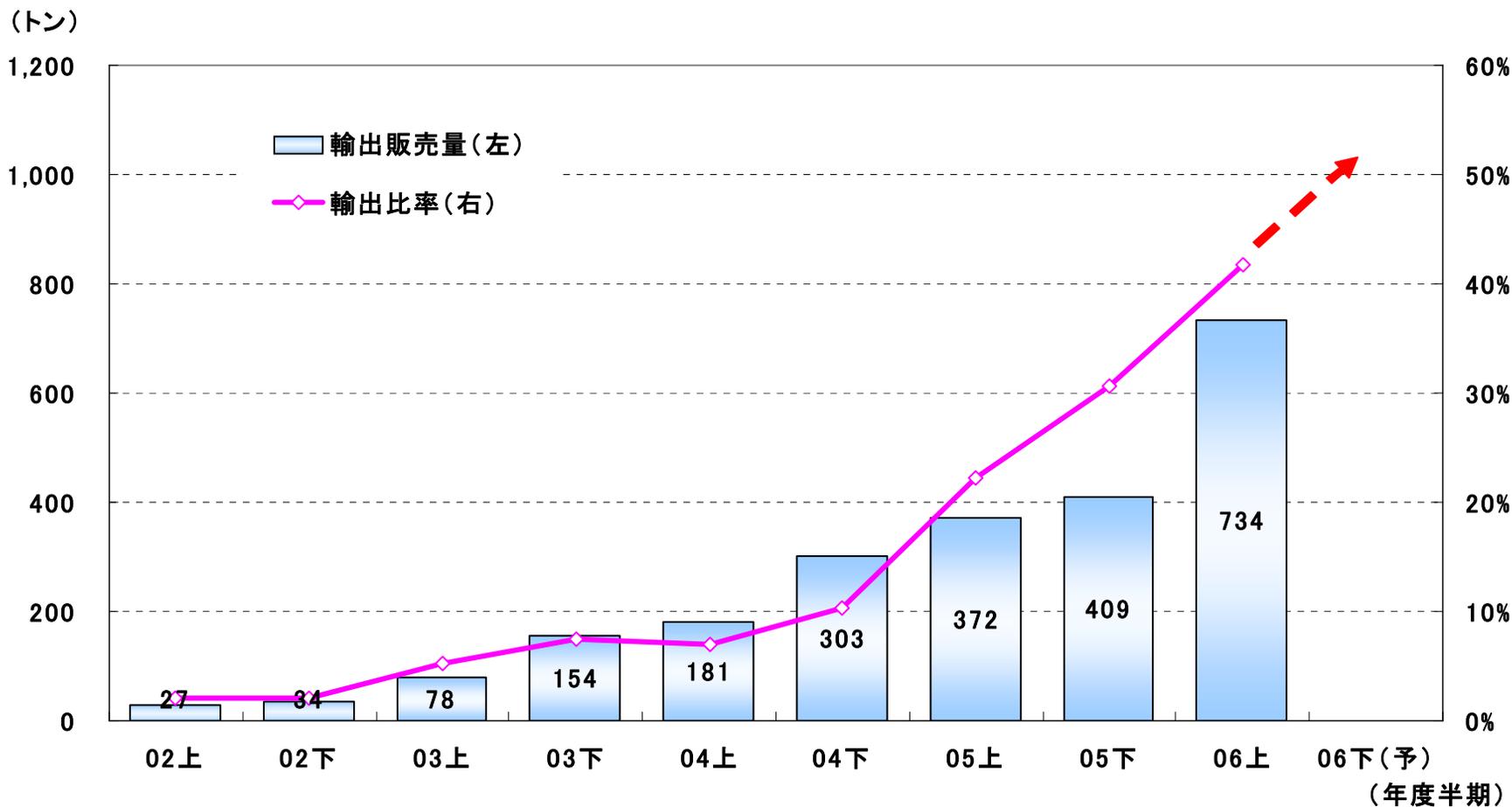
## 販売量及び売上高 《シャドウマスクを除く高機能材～月平均》

- ▶ ボリュームと成長性のある海外市場に重点を置いた販売戦略。
- ▶ 2006年度下期の販売量は2005年度上期の2倍へ急伸の見込み。



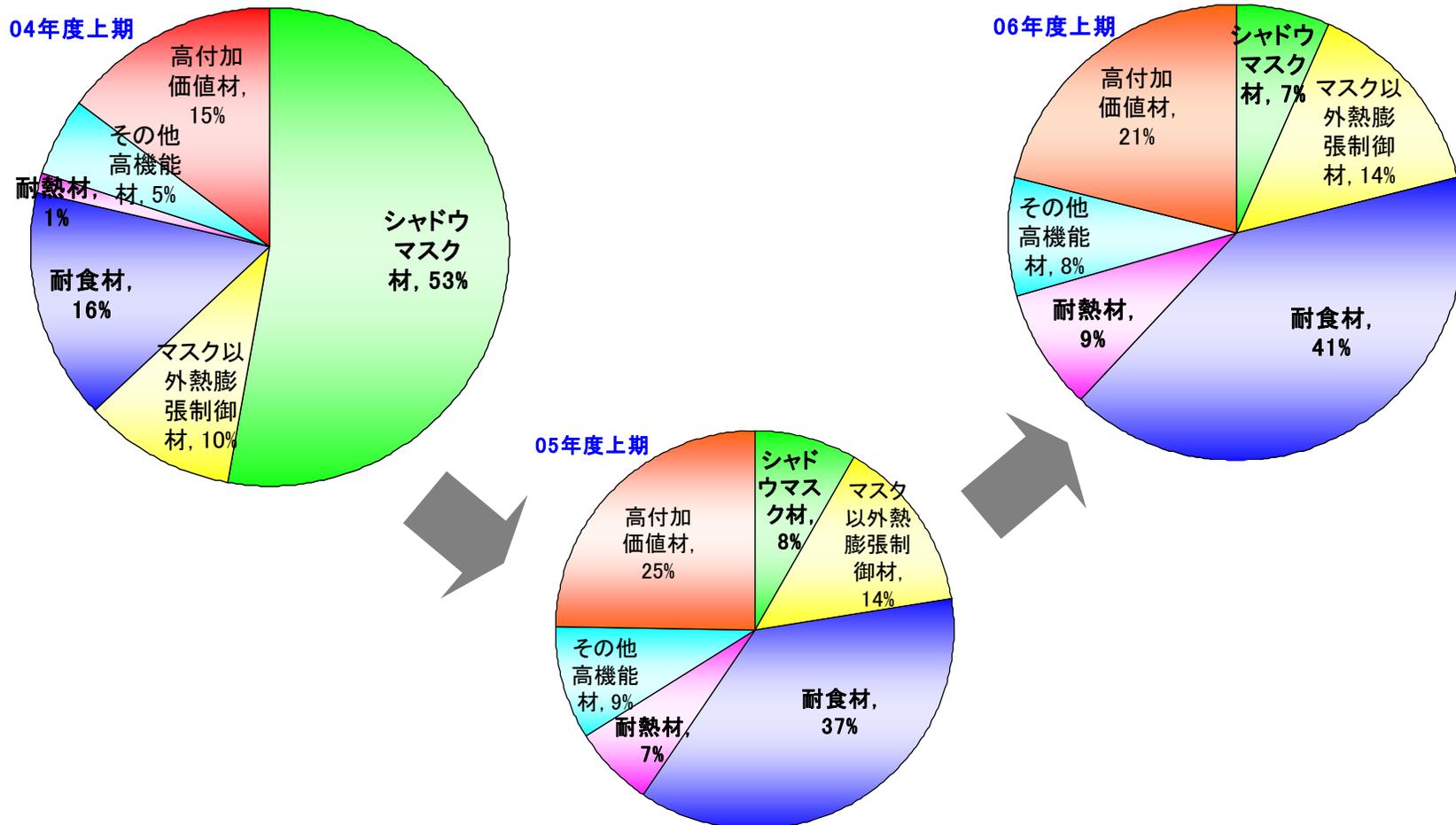
## 輸出の販売量及び売上高構成比 《高機能材合計～月平均》

- ▶ 需要が大きい海外市場の売上が拡大(マーケットに対応した販売戦略)
- ▶ 売上高に占める輸出の構成比が急上昇し、2006年8月以降は50%超へ。



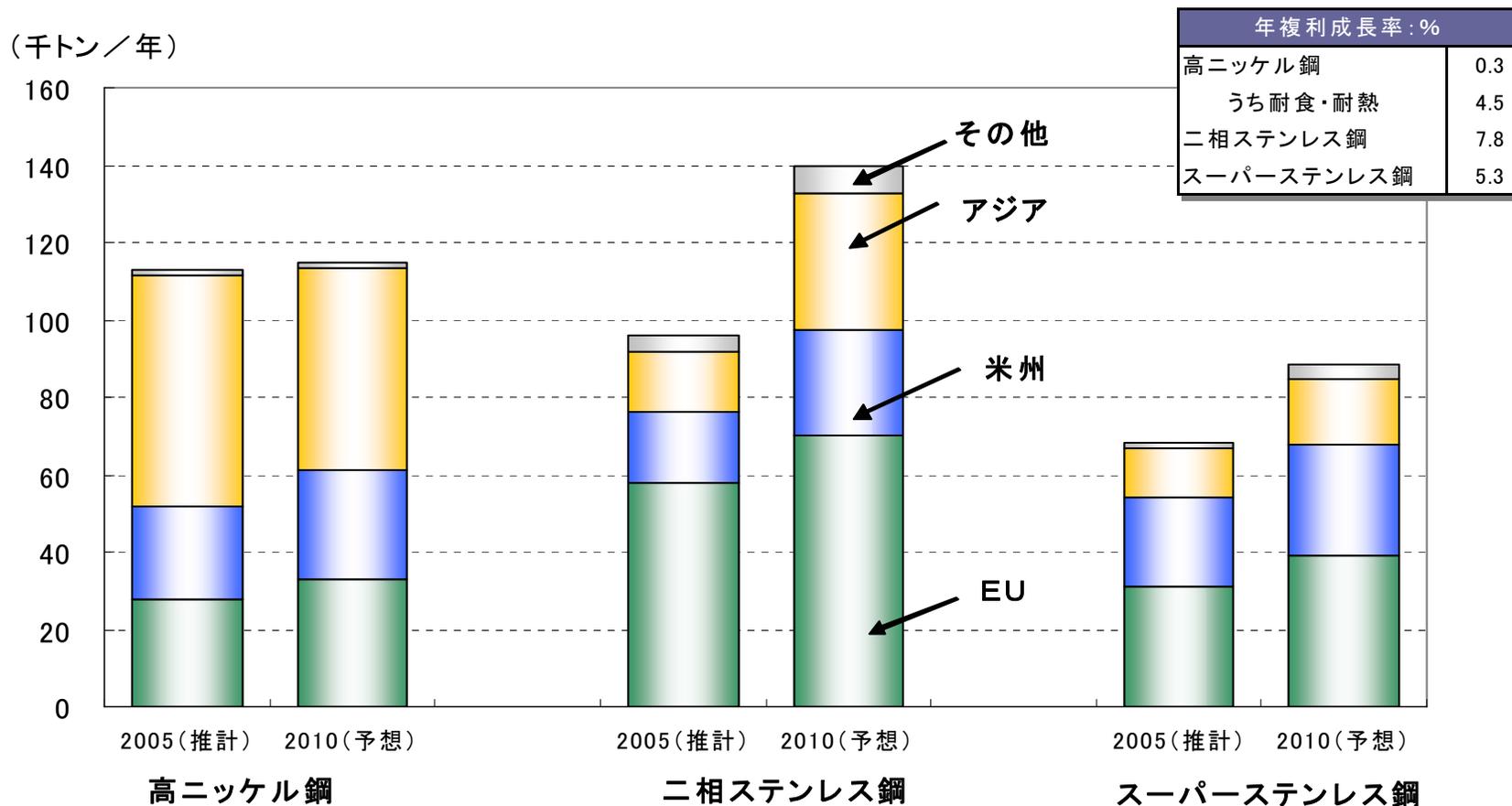
# 売上高の状況（高機能材部門6分類の売上高構成）

- ▶ 2005年度以降はシャドウマスク材の比率が大幅に低下。
- ▶ 耐食・耐熱材の比率は着実に上昇し、2006年度上期には50%へ。



# 耐食材・耐熱材の市場

- ▶ 高ニッケル鋼：規模が大きく、アジアのウエイトが高い。（日本は少ない）
- ▶ 二相ステンレス鋼：2010年にかけて高成長、特にアジアの伸びが大きい。



## 高機能材マーケット拡大の背景

### ▶ 原油価格の高騰とエネルギー需要の増加

⇒ 石油掘削、石油精製プラント、石炭ガス化プラントの増設

- ・インコロイ825、モネル400(通称)等の高ニッケル合金

### ▶ 環境改善需要の増加

⇒ 石炭・火力発電での排煙脱硫装置の新設と更新が進む

- ・スーパーステンレス、ハステロイ系の高合金を多量に使用

### ▶ 中東、東南アジアのオイルマネー

⇒ 海水淡水化装置に対する需要の増加

- ・スーパーステンレス、二相ステンレス

## 石油・ガスの掘削・精製プラント(高ニッケル合金)

- ▶ エネルギー需要の拡大によるプラントの増設
- ▶ 硫黄分を多く含む石油・ガスの掘削・輸送・精製に適した製品特性



# 環境改善需要の拡大(スーパーステンレス・ニッケル高合金)

- ▶ 石炭火力発電所における排煙脱硫装置の設置
- ▶ 高濃度腐食環境下での優れた耐食性



# 海水淡水化プラント(スーパーステンレス・二相ステンレス)

- ▶ 降雨量の少ない国々における海水淡水化装置への需要増加
- ▶ 海水環境での優れた耐食性への評価



## 資本政策について

### ▶ 配当政策

事業基盤の整備に必要な内部留保とのバランスに配慮しつつ、安定的な利益配分を行う

### ▶ 2007年3月期の配当予想 （普通株式1株当り・・・5円）

### ▶ 優先株式の取得・消却(2006年度上期)

第Ⅰ種優先株式	20百万株、40億円
第Ⅱ種優先株式	25百万株、50億円

第Ⅲ種優先株式取得・消却予定(MSCB60億円発行)

歴史あるステンレスメーカーから新しいステンレス特殊鋼メーカーへ

# 日本冶金工業

本資料のいかなる内容も、弊社株式の投資勧誘を目的としたものではありません。

また、本資料に掲載された計画や見通し、予測等は、現時点で入手可能な情報に基づいた弊社の判断であり、その情報の正確性を保証するものではなく、今後、予告なしに変更されることがあります。

万が一この情報に基づいて被ったいかなる損害についても、弊社および情報提供者は一切の責任を負いかねますので、ご承知下さい。

【本件に関するお問い合わせ】

日本冶金工業株式会社 IR事務局

Tel. 03-3273-3613 / E-MAIL. irjimu@nyk.co.jp